

令和6年1月5日

報告者 室崎

令和6年1月4日、日本防災士会の災害対応委員会準備会は、能登半島地震の発生に伴い、その被災地支援を効果的に展開するための「支援対策部会」を立ち上げました。

### (1) 支援活動の基本形

- ・被災地の支部の支援活動を基本にする。  
被災地に根差した支部の自発性を尊重する。  
その支部活動を本部および全国の支部が後方支援する。
- ・被災地の支部は、自治体および社会福祉協議会と連携し、その一翼として支援活動を展開する。  
ボランティアセンターが設立された場合は、その運営に協力する。  
被災地での民間ボランティア団体とも緊密に連携する。
- ・本部の災害対応委員会のもとに「支援対策部会」を設置し、情報提供、連携調整、支部支援などを随時かつ臨機応変にできるようにする。

### (2) 当面の活動方向

- ・被災状況や支援状況に関わる情報を集約し、ホームページやSNSなどを通して、会員および関心を持つ国民にも発信する。  
現在、Facebookで「日本防災士会 災害対応・防災情報」というページを立ち上げ情報発信中。  
石川県防災士会もFacebookページで「石川県防災士会 特設サイト」で発信されています。  
LINEの活用などによる情報の共有や発信の機動力を強化する。
- ・リアルな被災地の状況把握に努める。そのために先遣隊を地域別に派遣する。  
また個々の会員の現地情報も可能な限り集約する
- ・日本防災士会あげて、被災地支援のための募金活動を推進する。  
本部としても募金口座を開設する。  
支部でも街頭募金などを含め独自に進める。  
得られた募金は被災支部に提供するほか、支援対策部会の活動にも供する。
- ・石川県支部からの支援要請リストをもとに、必要な物資や資材を提供する。

リレー方式(全国→被災地外の集約拠点→被災地内の集約拠点→防災士等による配布)で展開する。  
とりあえず、支部は、石川県の大月さんと連絡を取って進める。

### (3) 支援対策部会

- ・現在の災害対応委員会の準備会のメンバーに、本部副理事長、北陸支部連絡協議会の代表、富山と石川と新潟のメンバーに加わってもらう。部会長は室崎。
- ・週1回会合を持つ。グループLINEとメールを活用し、常時、必要な協議を進める。